

Ticket

8.6(土)、午前10時より、全期間分を
チケットぴあにて発売!

※会場でのチケット販売・発券(当日券)はありません。紙のチケットをご持参ください。
販売期限:各上映の15分前まで

予告編なしで、本編からの上映となります。開映後は入場できませんのでご注意ください。

【全席指定席】	一般/ 65歳以上	高大生	小中生/障がい者/ キャンパスメンバーズ
◆PFFアワード2022	¥1,000		
◆第26回PFFスカラシップ作品			
◆ようこそ、はじめてのバゾリーニ体験へ			
◆青山真治監督特集	¥1,500	¥700	¥500
◆ブラック&ブラック			
◆PFFスペシャル映画講座			

※国立映画アーカイブ公式チケットサイトの電子チケットの販売はありません。(金額は税込)
※学生、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズ、障がい者の方は、ホール入場時に証明できるものをご提示ください。ご提示のない方は入場できません。(障がい者の付添者は原則1名まで障がい者と同料金)

マスク着用のない方の入館をお断りします。来館者全員に検温を行います。37.5度以上の方は入館をお断りします。

(右記に該当する方は、ご来館をお控えください) 新型コロナウイルス感染症について、陽性判定、あるいは医師に自宅待機指示を受けている方/検査結果待ち、あるいは体調不良の諸症状がある方/ご自身の身近に感染の疑いがある方/過去14日以内に、陽性の方と濃厚接触がある方、感染が拡大している国・地域への訪問歴がある方。

第44回ぴあフィルムフェスティバル チケット料金表

【チケットぴあ 購入方法】

①インターネット購入 [座席選択できる]

②セブン-イレブン [座席選択できない]

※発券手数料、システム手数料は0円です。

※チケットは会場では発券できません。

必ず各コンビニで発券して会場までお越しください。

チケット
ぴあ



今年は全プログラムとも小ホール(地下1階)での上映になります。



国立映画アーカイブ
National Film Archive of Japan
東京都中央区京橋3-7-6

会場アクセス ▶銀座線「京橋駅」1番出口より昭和通り方向へ徒歩1分▶浅草線「宝町駅」A4出口より中央通り方向へ徒歩1分▶有楽町線「銀座一丁目駅」7番出口より徒歩5分▶JR「東京駅」八重洲南口より徒歩10分

国内最大級のインディーズ映画配信サイト



「PFFアワード2022」
DOKUSO映画館とU-NEXTで、10.31(月)までオンライン配信!

【オンライン料金】1作品:100円~300円(税込)/入選16作品観放題パック:2,400円(税込)ほか
※バック販売はDOKUSO映画館のみ。

230,000本以上が見放題!



「U-NEXTポイント」で視聴可!

【主催】



一般社団法人PFF



国立映画アーカイブ
National Film Archive of Japan



公益財団法人
川喜多記念映画文化財団



公益財団法人ユニジャパン

【オフィシャルパートナー】



ホリプロ

dentsu
tokyo/osaka/nagoya



Hakuhodo DY
media partners

【特別支援】



一般社団法人
日本映画製作者連盟

【オフィシャルTOPサポーター】



【オフィシャルサポーター】



【特別協賛】

朝日新聞



【協賛】



【賛助】

アテネ・フランセ文化事業(株)/ (株)伊藤園/ エイベックス・ピクチャーズ(株)/ KANDO(株)/ ギャガ(株)/ キングレコード(株)/ クエストルーム(株)/ (有)スタンス・カンパニー/ チケットぴあ九州(株)/ チケットぴあ名古屋(株)/ (株)夏への扉/ (株)PIVOT/ フィルミネーション(株)/ (有)プレス/ (有)ヴォルテージ/ (株)マジックアワー/ (株)みずほ銀行/ (株)MOON LIGHT/ (株)ロボット

【後援】

特定非営利活動法人 映像産業振興機構(VIPO)/ 協同組合 日本映画監督協会

第44回

ぴあフィルムフェスティバル 2022



2022.9.10(土)→9.25(日)

※月曜休館



国立映画アーカイブ (京橋)
National Film Archive of Japan



第44回ぴあフィルムフェスティバル(PFF)では、その早い死を惜しまれる東西の映画作家を特集します。ピエル・パオロ・パゾリーニ監督と、青山真治監督。

青山監督は、代表作『ユリカ/EUREKA』の再公開が早々に始まりましたが、今後各所で展開される上映企画の第一歩として、PFFでは90年代からの前期5作品を上映します。

そして、パゾリーニ監督は、イタリア文化会館の協力もいただき、コンプリート上映に限りなく近いラインナップを目指しました。これら卓越した先達のみならず、PFFでは「これから」の映画を担う新世代を紹介し続けています。

コンペティション「PFFアワード2022」では、最新の自主映画とつくり手の魅力を思い切り浴びて、リフレッシュください。

そして、今、映画をつくる人にも、観る人にも、何かの発見のきっかけになる「映画講座」も恒例企画として継続します。

音楽好きは、ピーター・バラカンさんをお迎えする「ブラック&ブラック」に是非！

ときめきをたっぷり詰め込んだ14日間。「映画」の「祭り」に、どうぞご参加ください。

〈お知らせ〉

●…ゲスト来場予定。 35mm …35mmフィルム上映。マークのないものはデジタル上映です。

※外国語作品は、すべて日本語字幕付きの上映です。

※開場時間は、上映時間の15分前です。 ※国立映画アーカイブの開館時間は11:00です。(ただし、17日㊤、18日㊤、20日㊤のみ10:45開館)

※やむを得ない事情により、プログラムおよびゲストが予告なく変更になる場合もございます。あらかじめご了承ください。 ※ゲストの敬称は省略させていただきます。

Mon.	Tuesday	Wednesday	Thursday
12	13	14	15
休館日	「ロゴパプ」の一篇、ゴダールの「新世界」 今日から、PFFアワード作品→パゾリーニ作品→PFFアワード作品という、フレッシュで刺激的な一日3プログラム構成が始まります。	質疑応答は、映画祭の醍醐味！ オムニバス『華やかな魔女たち』登場！ パゾリーニ他豪華監督陣&キャストに注目。 PFFアワード回は毎回質疑応答いたします。	「イタリア式奇想曲」 PFFアワード作品ニ巡目に入ります。 パゾリーニは初上映オムニバス作品『イタリア式奇想曲』。 オムニバス映画制作が盛んな60年代です。
	12:00~ ◇PFFアワード2022 『水槽』 『暮れる』 15:30~ ◇ようこそ、はじめてのパゾリーニ体験へ 『ロゴパプ』 18:30~ ◇PFFアワード2022 『スケアリーフレンド』 『Lock Up and Down』	12:00~ ◇PFFアワード2022 『ふちしすこ』 『最も無害で、あまりにも攻撃的』 15:30~ ◇ようこそ、はじめてのパゾリーニ体験へ 『華やかな魔女たち』 18:30~ ◇PFFアワード2022 『ポラン』 『the Memory Lane』	12:00~ ◇PFFアワード2022 『瀉血』 『幽霊がいる家』 15:30~ ◇ようこそ、はじめてのパゾリーニ体験へ 『イタリア式奇想曲』 18:30~ ◇PFFアワード2022 『アクト』 『MAHOROBA』
19	20	21	22
敬老の日	いよいよ映画祭最終週が始まります。本日はバラエティに富んだパゾリーニ作品4本立てを敢行！ 唯一無二の映画体験を是非！	バラカン氏の解説も必見 ピーター・バラカン氏が解説するファッツ・ドミノでエキサイティングな夜を！ パゾリーニ作品にはガトー・バルビエリの姿が！	「アラビアンナイト」 パゾリーニ特集最終日。 『カンタベリー物語』 『アラビアンナイト』 『ソドムの市』を35mmフィルム上映です。 今夕、表彰式にてPFFアワード各賞を発表します。
休館日	11:15~ ◇ようこそ、はじめてのパゾリーニ体験へ 『マンマ・ローマ』 13:45~ ◇ようこそ、はじめてのパゾリーニ体験へ 『愛の集会』 16:00~ ◇ようこそ、はじめてのパゾリーニ体験へ 『大きな鳥と小さな鳥』 18:30~ ◇ようこそ、はじめてのパゾリーニ体験へ 『デカメロン』	11:30~ ◇ようこそ、はじめてのパゾリーニ体験へ 短編プログラム(3本立て上映) (1)『「奇跡の丘」のためのバレスチナ訪問』 (2)『インドに関する映画のための覚書』 (3)『サナアの壁』 13:45~ ◇ようこそ、はじめてのパゾリーニ体験へ 『アポロンの地獄』 16:15~ ◇ようこそ、はじめてのパゾリーニ体験へ 『アフリカのオレステイアのための覚書』 18:30~ ◇「ブラック&ブラック」 『ザ・ビッグ・ビート：ファッツ・ドミノとロックンロールの誕生』 ゲスト：ピーター・バラカン	12:00~ ◇ようこそ、はじめてのパゾリーニ体験へ 『カンタベリー物語』 15:00~ ◇ようこそ、はじめてのパゾリーニ体験へ 『アラビアンナイト』 18:30~ ◇ようこそ、はじめてのパゾリーニ体験へ 『ソドムの市』

Saturday	Sunday
10	11
コンペティション 「PFFアワード2022」でスタートします！ 〈観客賞〉は観客投票で決まります。ぜひご参加ください！ PFFスカラシップ最新作お披露目！	「アックターネ」 詩人、文学者、脚本家として注目されたパゾリーニが映画監督デビューしたのは39歳。 この日上映するデビュー長編『アックターネ』は〈詩〉です。
11:30~ ◇PFFアワード2022 『アクト』 『MAHOROBA』 14:45~ ◇PFFアワード2022 『瀉血』 『幽霊がいる家』 18:00~ ◇第26回PFFスカラシップ作品 完成披露上映 『すべての夜を思いだす』 ゲスト：清原 性 ほか	11:30~ ◇PFFアワード2022 『J005311』 『バンド』 14:45~ ◇ようこそ、はじめてのパゾリーニ体験へ 『アックターネ』 17:30~ ◇PFFアワード2022 『石川君、行け!!』 『彼は誰時(かわたれどき)』
16	17
PFFアワード作品は会期中2回上映&オンラインでの参加も可能です。 観客賞の投票は会場またはDOKUSO映画館から。 パゾリーニ『愛と怒り』は日本初上映です。	「PFFスペシャル映画講座」 本日は第3回大島渚賞受賞・藤元監督が講師のひとりに。 あの傑作のスクリーン上映が実現しました！
12:00~ ◇PFFアワード2022 『石川君、行け!!』 『彼は誰時(かわたれどき)』 15:30~ ◇ようこそ、はじめてのパゾリーニ体験へ 『愛と怒り』 18:30~ ◇PFFアワード2022 『J005311』 『バンド』	11:15~ ◇PFFアワード2022 『ポラン』 『the Memory Lane』 14:30~ ◇PFFスペシャル映画講座 『動くな、死ね、魅れ!』 講師：藤元明緒監督、村田悦子 18:30~ ◇PFFアワード2022 『水槽』 『暮れる』
23	24
秋分の日 青山真治監督特集。 『名前のない森』劇場版では音響と音楽について、 『月の砂漠』では監督の作品づくりについて、たっぷり伺います。	青山監督特集は『赤ずきん』『路地へ』の2本立てと、初期の傑作『WiLd LiFe』です。 早川千絵監督による映画講座も実現します。
13:00~ ◇PFFスペシャル映画講座 青山真治監督特集 『私立探偵濱マイク 名前のない森』 講師：菊池信之・長寛寛幸／進行：松井 茂 17:00~ ◇青山真治監督特集 『月の砂漠』 ゲスト：とよた真帆	11:30~ ◇青山真治監督特集 『赤ずきん』 『路地へ 中上健次の残したフィルム』 14:00~ ◇青山真治監督特集 『WiLd LiFe』 ゲスト：豊原功補 17:30~ ◇PFFスペシャル映画講座 『PLAN 75』 講師：早川千絵、水野詠子

12:00~ ◇PFFアワード2022 受賞作上映 準グランプリ含む 15:00~ ◇PFFアワード2022 受賞作上映 グランプリ含む 18:00~ ◇青山真治監督特集 『赤ずきん』 『路地へ 中上健次の残したフィルム』

PFF Award 2022

[コンペティション] PFFアワード2022

今年は、520本の応募作品の中から入選した、16作品をスクリーンで上映。
上映後は監督を迎えてのトークを行います。

〈オンライン配信も! 9.10㊥～10.31㊥〉
会場に来れない方もぜひ



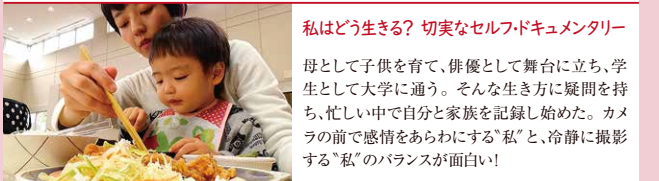
最終審査員



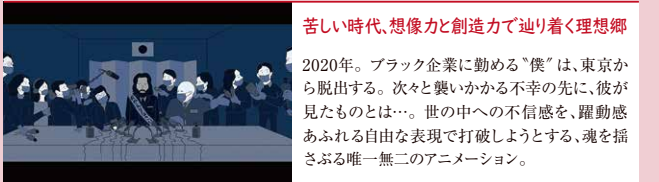
映画祭最終日 9.25㊥、受賞作上映あり!
※上映作品は9.22㊥に公式サイトで発表します。

A PFFアワード2022

『アクト』78分 監督: 田中 夢 (38歳/俳優 立教大学 映像身体学科卒)

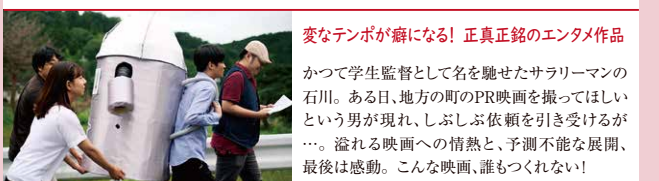


『MAHOROBA』14分 監督: 鈴木竜也 (27歳/飲食店勤務)

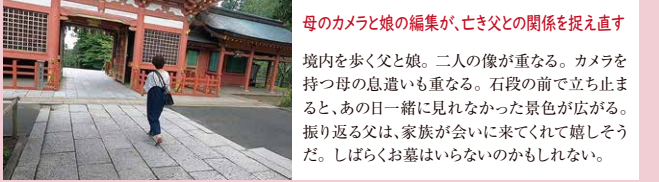


B PFFアワード2022

『石川君、行け!!』80分 監督: 高階 匠 (32歳/映像制作会社勤務)

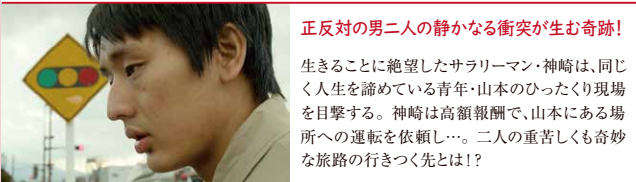


『彼は誰時(かわたれどき)』15分 監督: 谷本桃子 (21歳/名古屋学芸大学 メディア造形学部映像メディア学科)

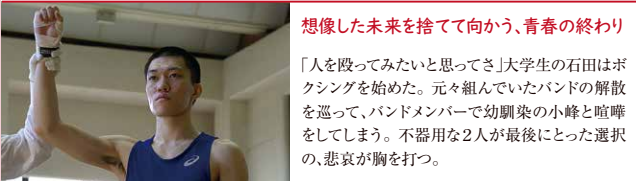


C PFFアワード2022

『J005311』93分 監督: 河野宏紀 (26歳/フリーター)



『バンド』28分 監督: 河村 陸 (24歳/フリーランス)

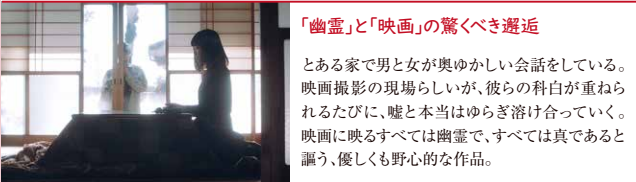


D PFFアワード2022

『瀉血』86分 監督: 金子優太 (20歳/青山学院大学 理工学部物理学科)



『幽霊がいる家』12分 監督: 南 香好 (31歳/フリーター)

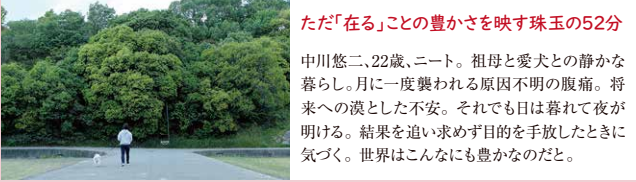


E PFFアワード2022

『水槽』53分 監督: 中里有希 (20歳/東北芸術工科大学 デザイン工学部映像学科)

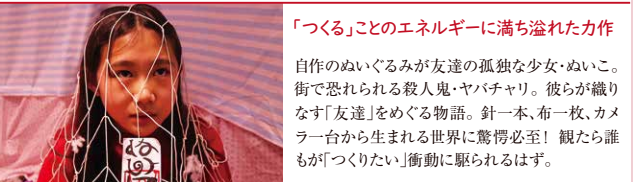


『暮れる』52分 監督: 竹田優哉 (25歳/神戸大学大学院 国際文化学研究科)



F PFFアワード2022

『スケアリーフレンド』76分 監督: 峰尾 宝・高橋直広 (23歳/会社員・23歳/無職)

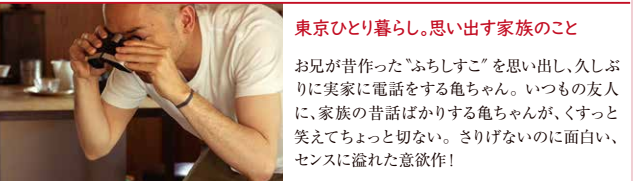


『Lock Up and Down』34分 監督: Minami (27歳/東京大学大学院 総合文化研究科)

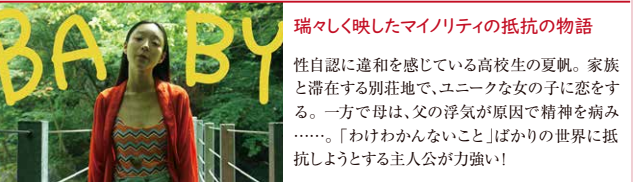


G PFFアワード2022

『ふちしすこ』69分 監督: 亀井史典 (40歳/フリーター)

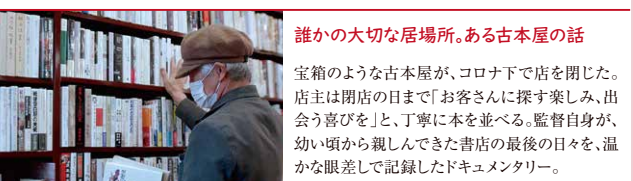


『最も無害で、あまりにも攻撃的』40分 監督: 中田江玲 (23歳/慶應義塾 大学環境情報学部)

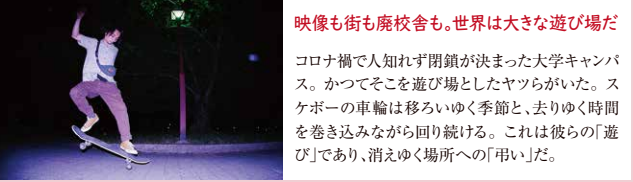


H PFFアワード2022

『ポラン』74分 監督: 中村洸太 (23歳/立教大学 社会学部)



『the Memory Lane』25分 監督: 宇治田 峻 (27歳/フリーター)



Invited Works

[招待作品部門]
観る人も、つくる人も
驚きと発見と喜びの14日間をお届けする4企画です。
※ゲストの敬称は省略させていただきます。

Black & Black

ピーター・バラカン氏の解説で楽しむ音楽映画シリーズ
「ブラック&ブラック」
2019年から始まった、大スクリーンで黒人音楽映画を堪能する企画です。
今年はロックン・ロールのパイオニア、
ファッツ・ドミノに注目です!

『ザ・ビッグ・ビート: ファッツ・ドミノとロックンロールの誕生』 9.21㊥ 18:30~
THE BIG BEAT: Fats Domino and The Birth of Rock'n' Roll
2016年/アメリカ/カラー/90分 監督・脚本: ジョー・ローロ



エルヴィスもロックンロールの王様と讃えたファッツ・ドミノ
1956年にエルヴィス・プレスリーの人気で世界的に認識されたロックンロールは、実はその数年前からすでに形になりつつありました。ニュー・オーリンズでその原形を作ったといえるファッツ・ドミノの功績を丁寧に追ったこのドキュメンタリーは関係者の貴重なインタビュー満載で、音楽ファン必見です。(ピーター・バラカン)

PFF Scholarship

[オープニング]
第26回PFFスカラシップ作品 完成披露上映
PFFが企画、製作、公開まで
トータルで映画をプロデュースする「PFFスカラシップ」。
今年は、『わたしたちの家』でPFFアワード2017グランプリに輝いた清原惟監督、待望の新作を世界初上映します。

『すべての夜を思いだす』2022年/116分予定
出演: 兵藤公美、大場みなみ、見上 愛
監督・脚本: 清原 惟



世代が違う女性たちの一日の断片が響きあう
多摩ニュータウンですれ違う三人の女性たち。誰かにとって大切な記憶が、誰かの一日と呼応する。街に積み重なる時間の痕跡に触れ、小さな変化が起きていく。そんな、春のやわらかな日差しに包まれた、ある一日の物語。

きよはら・ゆい/1992年生まれ、東京都出身。東京藝術大学大学院の修了制作作品『わたしたちの家』がPFFアワード2017にてグランプリを受賞。国内外で大きな話題を呼んだ。2014年に『暁の石』、2015年に『ひとつのバガテル』でも入選している。

Pier Paolo Pasolini

ようこそ、はじめてのパゾリーニ体験へ

詩人、小説家、脚本家、評論家、俳優、活動家、多くの顔を持ち、映像表現の最先端を、人間の深淵を、激しく、そして純粋に追及し続け、センセーショナルな話題にまみれた比類なきイタリアの知と行動の人
ピエル・パオロ・パゾリーニ(1922-1975)。
生誕100年を迎えた本年、その軌跡を未体験世代に!
共催:イタリア文化会館



この16作品に『奇跡の丘』『テオレマ』『王女メディア』を加えた19作品を10月22日㊦より渋谷・ユロススペースで再上映します

『アッカトーネ』 Accattone 1961年/イタリア/白黒/117分



🕒 9.11㊦ 14:45~

ヒモを生業とする青年が純真な少女と恋に落ち、生き方を変えようとするが…。戦後の復興を謳われながら尚、過酷なスラムの暮らしを描き、衝撃と論争を巻き起こしたデビュー作。詩才が炸裂する傑作となった。アッカトーネは伊語で「乞食」。

『マンマ・ローマ』 Mamma Roma 1962年/イタリア/白黒/106分



🕒 9.20㊦ 11:15~

素人を好んで使うパゾリーニが、本作には国民的女優アンナ・マニャーニを招き、美しく成長した息子を貧しさから抜け出させようと奮闘する元結婚のマンマ・ローマを熱く強烈に演じさせる。実話からヒントを得たという息子の運命がかなしい。

『ロゴバグ』 Ro.Go.Pa.G. 1963年/イタリア、フランス/白黒/122分



🕒 9.13㊦ 15:30~

「冷戦時代の世界の終末の始まり」をテーマにロッセリーニ、ゴダール、パゾリーニ、グレゴレッティが参加。パゾリーニの『リコッタ』は、主演の映画監督役にオーソン・ウェルズを迎えるも「キリスト教を冒涜している」と物議をかもした。

『愛の集会』 Comizi d'amore 1964年/イタリア/白黒/93分



🕒 9.20㊦ 13:45~

イタリア全土を移動しながら、子供から老人まで多彩な背景、年齢の人々にタブーとされた性や恋愛について聞いていく画期的なシネマ・ヴェリテ。それを作家のモラヴィア、精神分析家ムザッティらと分析し「イタリア」を描こうという意欲作!

PFF Special Movie Lectureship

PFFスペシャル映画講座

実作者が、あるテーマのもとに映画を選び、語ることでその映画に新しい光が当たる。そんな時間を続けています。
本年は3つの映画講座を展開します。

『大きな鳥と小さな鳥』 Uccellacci e uccellini 1966年/イタリア/白黒/86分



🕒 9.20㊦ 16:00~

放浪する無知な親子(父を喜劇王トト、息子をニネット・ダヴォリ)に言葉を話す不思議なカラスが同行する。やがて知的なカラスにうんざりした親子は…。『生と死』の問題を寓話的な物語形式で描きパゾリーニの転換点となった貴重作。

『アポロンの地獄』 Edipo Re 1967年/イタリア/カラー/104分



🕒 9.21㊦ 13:45~

ソフォクレスのギリシャ悲劇『オイディプス王』をもとに、強烈な母への愛情と父への憎悪=エディプス・コンプレックスを描く自伝的作品。初カラー作品でもあり大女優シルヴァーナ・マンガノが輝く。自由に時代を超える美術や音楽も出色。

『華やかな魔女たち』 Le streghe 1967年/イタリア/カラー/107分



※オムニバス 🕒 9.14㊦ 15:30~

パゾリーニ(『月から見た地球』)、ヴィスコンティ、ボロニーニ、フランコ・ロッシ、デ・シーカのイタリアを代表する5監督と、クリント・イーストウッド、アニー・ジラルドなど国際的なキャストが参加。シルヴァーナ・マンガノが各話の魔女で登場。

The Witches ©1968 Metro-Goldwyn-Mayer Studios Inc. All Rights Reserved.

『イタリア式奇想曲』 Capriccio all'italiana 1968年/イタリア/カラー/81分



※オムニバス 🕒 9.15㊦ 15:30~

1970年代のイタリア社会について、6人の巨匠が辛辣なユーモアを交えて描いた6本の短編作品。パゾリーニは『曇って何?』を監督。喜劇王トトとニネット・ダヴォリが、操り人形に扮して、シェイクスピアの『オセロ』をコミカルに演じる。

『豚小屋』 Porcile 1969年/イタリア/カラー/99分



🕒 9.18㊦ 14:30~

中世の戦闘でのカニバリズムと現代のブルジョワ社会の獣姦、2つの物語を交互に進行させるユニークな構成の寓話。ピエール・クレマンティ、ジャン・ピエール・レオ、アンヌ・ヴィアゼムスキーなど、プロの俳優がメインとなるのも新しい試み。

『愛と怒り』 Amore e rabbia 1969年/イタリア、フランス/カラー/102分



※オムニバス 🕒 9.16㊦ 15:30~

ゴダール、ベルトルッチなど5監督が参加。パゾリーニの『造花の情景』の舞台はローマ。大きな造花を持って街を軽やかに歩く青年の屈託のない表情と、戦争、爆撃、虐殺、チェ・ゲバラの最新などの記録映像が、対照的に重なりあう。

©2022[PLAN 75]製作委員会/Urban Factory/Fusee

「日本に少ない、短編を長編にする試み」🕒 9.24㊦ 17:30~

講師:早川千絵(映画監督) × 水野詠子(プロデューサー)

今年のカンヌ映画祭で話題を呼んだ[PLAN 75]は、75歳で死を選択するシステムの始まった社会を描く同名の短編(2018年『十年 Ten Years Japan』でのオムニバスの1編)をもとに早川監督自身が長編化。併走してきた水野プロデューサーとともに、その軌跡を伺っていく。



上映作品紹介:
『PLAN 75』長編版
2022/日本/カラー/112分
出演:倍賞千恵子、磯村勇斗、ステファニー・アリアン
監督:早川千絵

『アフリカのオレスティアのための覚書』 Appunti per un'Orestiade africana 1970年/イタリア/カラー/65分



🕒 9.21㊦ 16:15~

※ドキュメンタリー
ギリシャ悲劇の登場人物オレステスを現代アフリカに置く構想で、ウガンダ、タンザニアをモラヴィアと旅した記録。後年『ラスト・タンゴ・イン・パリ』で注目されたガトー・バルビエリの貴重な演奏も記録されている。

『デカメロン』 Il Decameron 1971年/イタリア/カラー/112分



🕒 9.20㊦ 18:30~

14世紀イタリアの偉大な作家ジョヴァンニ・ボッカッチョが生んだ『百物語』『デカメロン』から8話を、奔放な解釈で映画化。コミカルで愛に溢れ1971年ベルリン国際映画祭で銀熊賞を受賞。本作から『生の三部作』が始まった。

『カンタベリー物語』 I racconti di Canterbury 1972年/イタリア/カラー/111分



🕒 9.22㊦ 12:00~

陽気な『生の三部作』第2弾。14世紀イギリス詩作の父、ジェフリー・チョーサーの『カンタベリー物語』を長期イギリスロケで実現した、カンタベリーを目指す巡礼たちの艶笑体験談オムニバス。1972年ベルリン国際映画祭金熊賞受賞。

『アラビアンナイト』 Il fiore delle mille e una notte 1974年/イタリア/カラー/131分



🕒 9.22㊦ 15:00~

『生の三部作』第3弾。『千夜一夜物語』をベースとしたカップルの時空を超える愛の物語。舞台とした北イエメン・シバームの旧城壁都市とエンニオ・モリコーネの音楽が夢の世界を紡ぐ。1974年カンヌ映画祭審査員特別賞受賞。

『ソドムの市』 Salò o le 120 Giornate di Sodoma 1975年/イタリア/カラー/118分



🕒 9.22㊦ 18:30~

「スクリーンの上で堪えられるものの限界に到達したい」と願ったという遺作。時代と場所をナチ占領下北イタリアに置き、宗教、王権、行政、資本を代表する権力者たちの背徳的な行為を、人間の醜さの極限として描き切った超衝撃作。

短編プログラム(3本立て上映) 1965~71年/92分



🕒 9.21㊦ 11:30~

(1)『奇跡の丘』の撮影前に、実際イエスが訪れた土地を記録した映像、(2)インドに関する映画のためのリサーチ、(3)イエメンの美しい建築物の保護を訴える短編。いずれも日本で見える機会の少ないドキュメンタリー3本を一挙上映。

©Cristina D'Ossualdo. Tutti i diritti riservati. Pubblicato per gentile concessione della VIGGO Srl.

「人生を変えた映画がある」🕒 9.17㊦ 14:30~

講師:藤元明緒(映画監督) × 村田悦子(gnome(ノーム)代表)

1990年のカンヌ映画祭に突然現れた54歳の新人監督ヴィターリー・カネフスキー。ストリートチルドレンの過去や、無実の罪での8年間の投獄体験もある彼の驚異的な映画によって完全に人生が変わったという藤元監督と映画配給の村田氏に、映画との運命の出会いについて伺う。



上映作品紹介:
『動くな、死ね、甦れ!』
1989年/ソ連/白黒/105分
出演:バーヴェル・ナザーロフ、ディナーラ・ドルカーロフ、エレナ・ポボワ
監督:ヴィターリー・カネフスキー

Shinji Aoyama

青山真治監督特集

3月21日に逝去した
青山真治監督(1964-2022)。
8ミリ自主映画制作から助監督、監督へ。同時に、音楽家、小説家、舞台演出家、批評家と多才に活躍した、その膨大な仕事を網羅するには歳月が必要だが、PFFでは青山監督の初期ともいえる時期を彩る個性溢れる35mmフィルム5作品を緊急特集する。劇場公開の機会の少ない作品でもあり、スクリーンでその才気を堪能してほしい。

撮影:池田正之

『WiLd LiFe』1997年/102分 トークゲスト: 豊原功補(俳優)

出演:豊原功補、ミッキー・カーチス、夏生ゆうな 🕒 9.24㊦ 14:00~



おかしくて優しくて粋な青山流ハードボイルド!

津村商会で釘師をする元ボクサー・酒井宏樹。ビデオテープを巡って、思える津村社長とその娘、関西のやくざ、元同僚、個性溢れる面々に翻弄されながら最後に…。『冷たい血』『シェイディー・グローヴ』と続く「結婚をめぐる3部作」の始まりでもある。

『月の砂漠』2001年/131分 トークゲスト: とよた真帆(俳優)

出演:三上博史、とよた真帆、柏原収史 🕒 9.23㊦ 17:00~



アシタ、アナタはドコにイル? 早すぎた傑作

ITベンチャー経営者として時代の寵児となった永井だが、妻子に逃げられ、会社も倒産の危機に直面していた。孤独、焦燥、寂しさ、倦怠、哀しみ。時代を先取りする埋めようのない喪失感を抱えた男の物語。2001年カンヌ映画祭コンペティション出品。

©2001/2003『月の砂漠』製作委員会

『赤ずきん』2008年/35分 🕒 9.24㊦ 11:30~

『路地へ 中上健次の残したフィルム』2001年/64分 🕒 9.25㊦ 18:00~



先達へのオマージュあふれる珠玉作たち

『アタラント号』(34年/ノヴィゴ)のようにセーズ川で舟を撮影してみるのも悪くない、と青山監督がバリエ郊外のジュヌヴィリエで撮影した短編&作家・中上健次が描いた故郷の路地の風景を訪ねるドキュメンタリー。異色の二本立て上映を実現。

©スローラナー/brandish

「青山真治の音響、そして音楽」🕒 9.23㊦ 13:00~

講師:菊池信之(音響技師) × 長島寛幸(音楽家) 進行:松井 茂(詩人)

自身ミュージシャンであり音に強くこだわった青山監督作品を支えた、音響の菊池氏と音楽の長島氏が「かなり自由にやってみることができた」と語る、人気テレビシリーズの劇場公開版とともに、その音作りを語る。青山監督のユーモアと映画史を彩る名作への敬意に満ちた快作。



上映作品紹介:
『私立探偵濱マイク 名前のない森』
2002年/日本/カラー/71分(映画版ロングバージョン)
出演:永瀬正敏、鈴木京香、大塚寧々
監督:青山真治

写真提供:読売テレビ